

天声人語

震度7の揺れに襲われた北海道厚真町に「9・6」という名のコンビニが店を構えた。場所は避難所の一角。商品はすべて無料。水、軍手、新聞などが一通りそろう。「地震の起きた日にちなむ店名です」。避難者が教えてくれた▼道内全域で41人が犠牲になり、2千人近くが避難生活を送る。最も被害の集中した厚真町の避難所では、温かい食事の配給所や風呂、子ども部屋、障害者用トイレも設けられた▼「避難生活で大切なこと」という呼びかけ文があった。書かれた助言は三つ。「水分をまめに」「うがい手洗いを」「足指を動かす」。手書きが温かい。避難した住民はしばし安堵の息をつく▼だが余震はやまない。「考えが全然まとまらない」。避難所の裏手で女性のそんな涙声を聞いた。親しい人と携帯電話で話しているらしい。避難所内では気丈にふるまつっていても、一歩外に出れば涙をこらえられなくなるのだろう▼ほかの被災地でも、自宅に戻ることのできない人々はいまなおいる。西日本豪雨の被災地では1500人が避難所でこの秋を迎える。熊本地震では2万8千人が仮住まいのままだ。これほど大勢が、これほど長い間、安住の地から遠ざけられてきたのか。その事実に改めて驚く▼厚真町内の避難施設の掲示文を見て回る。丸顔のトラ、体操する足の指。素人風のイラストが笑いを誘う。被災者たち自身の工夫とユーモアの向こう側に、困難を乗り越える力強さを見た。

2018・9・11